



そこいびきおすちやんが
やっこきこい言うました。

「それは、おかしおかし
ほんな話があったのよ」



いまから約三百年前。

松山に長門屋市左衛門が

営いこなむやそなうなめなんな屋やがなあなつなたなそなうな。

市左衛門には、

「おめめ」と「おなな」という

お名前があった。

しんめん



おすめたちは

毎日まいにちつばき神社つばきじんじやに

おまいにいっていたぞうな。

「お店みせがはなごうじい

家族かぞくみんな幸せしあわせに

暮くせますようじい」



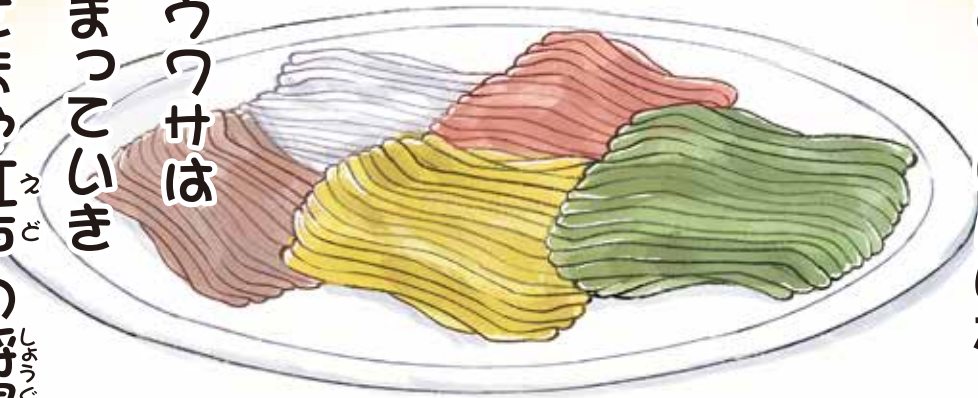
そんなある日、^ひごころからともなく
美しい五色の糸が^{うつくしいごしちゆうい}
おすめたちからみついた。

「まあキレイな糸！」^{うつくしいいと}
「これはきつと神様からの^{かみさま}
おまげにちがいないわー！」

うつついし魚をもつ

五色のきつめたは

町でひきつばたになつた。



そのうつつは

ひろまっしき

お殿さまや江戸の將軍さま

そしあめの正岡子規も

食べたそうな。





「く〜うんだったんだー!」

「おんがた

やごめがったわよ!」

「わ〜!きれいな色!」

「いただきますー!」